



Title	ブラジルのワクチン製造プロジェクト
Author(s)	高延, 壮男
Citation	makoto. 1982, 39-40, p. 2-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86065
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「ブラジルのワクチン製造プロジェクト」

阪大微研観音寺研究所

製造部長 高延壯男

一九八〇年八月一三日、大阪大学・深井孝之助・教授（本会理事長）を団長とする実施調査團により、日伯技術協力によるブラジル国ワクチン製造プロジェクトのR/D（討議議事録）が締結され、衛生省オズワルド・クルス財団に対して、大阪大学名誉教授・奥野博士（本会理事）等によつて開発された麻しんワクチンの生産に関する施設援助及び技術指導、並びに、ポリオ等による開発された麻しんワクチンの生産に対する技術指導を行なうことになり、ブラジルに渡った。

ブラジルは、地球上で日本と表裏の位置にある広大な面積をもつてゐる国である。その広さは、日本国土の約二三倍、世界の陸地の一六分の一を占めており、地形は、ブラジル高地、その北部のアマゾン河流域のセルバ、及び南西部ラプラタ河流域に分けられる。気候も、北緯五

度、南緯三四度にまたがつてゐるため、熱帯と亜熱帯に大別され、更に一部温帶も含んでゐる。この広大な国の人口は、日本とほぼ同様の一億一千万人と言われている。その民族は、ボルトガル、スペイン、イタリア、ドイツ、フランス等ラテン民族が主流で、その他アラブ、アフリカ、原住民インディオ、さらには二〇世紀になってから移民として入植した日本を始めとする東洋系民族とまさに人種のつぼである。

ブラジルに住む日系人は、その約八〇万人と言わればその大半は、南米最大の経済都市をもつてゐるサンパウロ州に住んでおり、海外系社会の中で最大である。オズワルド・クルス財団はち

行なわれるリオデジャネイロも数年前から日本人が増加の傾向を示し、一九七一年日本人学校が開設され、当初小中学生五三名であったが、日本の民間企業の進出が増加するにつれ、一九八〇年には四〇〇名近い児童生徒数に達している。この日本人

学校の教育方針は、日本の文部省教育要綱に基づいて行なわれ、徒数に達している。

帰国後日本の学校教育に支障のないことを重点的に考えられ

ている。長期出張者は、子弟の教育に対する不安を抱くことなく、仕事に専念出来る状況にあ

り、このことは関係者各位の大いなる努力の賜物である。

オズワルド・クルス財団はち

現在は約一、七〇〇名の従業員により、研究所、国立公衆衛生学校附属病院、生物製剤製造所等広範囲にわたる部局をもつて組織されている。

これから行なわれるワクチン製造プロジェクトは、前記生物製剤製造所で行なわれる。この

製造所は一九七六年に設立された世界有数である黄熱病ワクチ

ンの生産、麻しんワクチンの輸入バルクの凍結乾燥、臍膜炎ワ

クチンの試作研究の他、各種感

三大美港の一つと言われる港、さらにコバカバーナ、イバネマなどの美しい海岸を含む観光リゾート地帯として有名である。このような風光明媚な地に所在する。

オズワルド・クルス財団は研究所として古い歴史をもち、野口英世が訪問した記録も保存されている。財団として正式に発足したのは一九七〇年で衛生省が開設され、当初小中学生五三名であったが、日本の民間企業の進出が増加するにつれ、一九八〇年には四〇〇名近い児童生徒数に達している。この日本人学校の教育方針は、日本の文部省教育要綱に基づいて行なわれ、徒数に達している。

オズワルド・クルス財団は研究室として古い歴史をもち、野口英世が訪問した記録も保存さ

れており、財団として正式に発

足したのは一九七〇年で衛生省

が開設され、当初小中学生五三

名であったが、日本の民間企業

の進出が増加するにつれ、一九八〇年には四〇〇名近い児童生

徒数に達している。

行なわれるリオデジャネイロも

数年前から日本人が増加の傾向を示し、一九七一年日本人学校

が開設され、当初小中学生五三

名であったが、日本の民間企業

の進出が増加するにつれ、一九

八〇年には四〇〇名近い児童生

徒数に達している。

行なわれるリオデジャネイロも

数年前から日本人が増加の傾向を示し、一九七一年日本人学校

が開設され、当初小中学生五三

名であったが、日本の民間企業</p

の発生は、衛生省の発表による
と表2の如く、一九七五年から
ボリオワクチン接種を行なって
いるにもかかわらず、依然とし
て患者発生を減少させることができない。そこで衛生省は一九八〇年にボリオ撲滅運動を開始した。この運動は、ボリオウイ

表1 各種ワクチンの年度別接種状況

年度	ボリオ	三種混合	麻しん	B	C	G
1975	25.4%	28.3%	22.6%	—	%	
1976	34.1	29.2	29.2	—		
1977	39.4	42.4	41.6	—		
1978	44.5	47.8	42.2	—		
1979	46.3	48.0	46.0	52.7		

表2 年度別ボリオ患者発生数

年度	患 者 数	年度	患 者 数
1970	2,270人	1975	3,433人
1971	2,208	1976	2,626
1972	1,429	1977	2,398
1973	1,610	1978	1,711
1974	1,074	1979	2,234



ポリオワクチン予防接種風景

つて重大な問題である。先進国においては、予防接種がこれら の撲滅に重要な役割を果してい る。ブラジルにおいても、麻し ん及びボリオの撲滅運動が計画 され、すでにボリオに関しては 運動が開始されている。広大な ブラジルにおいて全国一斉にワ チン接種日は休日の土曜日（ブ ラジルは全国的に週休二日制を 採用している）が当てられた。

チニンは日本における總選 撲滅を思わせる光景である。ワク フラジルも日本も同様石油消 費国であることから、土曜、日曜日はガソリンスタンプが閉鎖

自動車による移動献血車のように、見かける等万全の措置がとられた。さらにワクチンの輸送、保管、接種に至るまで十分な計画に従事されて、ボリオ撲滅運動は開

試作を行ない、このワクチンの野外試験が計画、実施されることがある。その結果に基づいて、ブラジルにおける麻しん予防計画が立てられ、ワクチンの大量生産に入ることになる。ワクチンの製造には特殊な材料及び資材を必要とすることから難問題となる。

-3-

ポリオワクチン、三種混合ワクチン（百日咳、ジフテリア、破傷風）、麻しんワクチン、BCG、について行なわれている。これらのワクチンの接種率は表1に示されるように五〇%に満たないのが現状である。 ブラジルにおけるポリオ患者

ルスの伝播を阻止して、これを徹底的に根絶やしにすることを意図したもので、ボリオにかかる恐れのある五歳以下の児童を対象にして向う五カ年間に渡り、全国的に大キャンペーんを開催しようとするものである。

麻しん・ボリオ撲滅運動

クチン接種をどのようにして実施するか興味のあるところでも、の運動の周知徹底である。宣伝公告ビラを公共の建物、バス停をはじめ、バス、ホテルのロビーに至るまで掲示する他、テレビ、ラジオを通じての呼びかけ等あらゆる手段を使って宣伝する。

されているが、この日にかぎりオーブンして国民の足の確保に努める等この運動を強力に進めている様子がうかがえる。予防接種当日は、医師は勿論、教師公務員、軍人、さらにボランティアまで動員された。またワクチン接種場所は、保健所、学校集会場等が利用される也、日本

麻しんワクチン国産化

小児に高い死亡率を示している。麻しんの撲滅運動が考えられて いる。そのための予防接種計画 をたてるには、ワクチンの確保 を外国に依存することなく国内 で生産する必要があり、ワクチ ン製造プロジェクトが作られた。 このプロジェクトはスタート したところであり、現在ラジ ルの技術者の養成と並行して施 えられる。このようにして、こ

試設置に着手されている。これらが整い次第麻しんワクチンの試作を行ない、このワクチンの野外試験が計画、実施されるところとなる。その結果に基づいて、ブラジルにおける麻しん予防計画が立てられ、ワクチンの大量生産に入ることになる。ワクチンの製造には特殊な材料及び資材を必要とすることから難問題

が多いが、これを一つずつ解決して行かねばならない。そのた

めには派遣される技術者の大いなる努力と、国際協力事業団の

円滑な援助がなければならない。

熱心に本プロジェクトに取り組んでいる様子がうかがえ、必ず

好成果を得るものと信じている。